

童（わらべ）にかえり、遊び唄を口ずさむ

「あ さて、あ さて、さては南京玉すだれ・・・」

世相を唄い込み、すだれと観衆を巧みに操るまる子さん。

「一かけ 二かけて 三かけて 四かけて 五かけて 橋をかけ
橋の欄干 手を腰に はるか彼方を 眺むれば 十七八の 姉さんが
花と線香を 手に持って もしもし姉さん どこ行くの・・・、ジャンケンポン！」

わらべ唄、あそび唄、お手玉唄、手毬唄、手合せ唄・・・。

すっかり記憶から消え去っていたその唄が、自然と口が、手が、からだ
が動いている。みんな、身も心も童（わらべ）にかえっていたよ。

